

## 第5回町田市子どもの居場所づくり懇談会議事録（要旨）

日時	2008年12月19日 10:00～12:00
場所	町田市役所森野分庁舎4階第三・第四会議室
出席者	長野座長、脇副座長、藪田委員、宮島委員、小澤委員、舟山委員、近藤委員、盛永委員、上田委員、福田委員、岩崎委員、安食委員
傍聴者	1名

座長： 本日の懇談会では、1. 地域会議のまとめにあたってと、2. 報告書の作成にむけての2点をメインテーマに進めていく。

（議題1 各地域の第3回地域会議の報告）

座長： いよいよまとめの方向となる。各地域からの報告はおおかたの総意、特に強くでた提案を集約する方向で、具体的に発表していただきたい。その後、懇談会としてそれらの意見を吸い上げ、町田市全体としてどうまとめていくか検討したい。

地域の議事録とは別にある、町田地域の資料のような、具体的な項目立てをしてもらえるとわかりやすい。

### 『町田地域の報告』

副座長： 町田地域の報告として、前回までの意見も入れながら、コンパクトにまとめた。新しい取り組み、箱ものという話も出たが、子ども達にとっては待てないということで、次のように話が進んだ。（資料参照）

- 家から近いところに必要、通えるところに居場所が欲しい。今ある施設には通えない。半径500mの範囲の中などの意見が出た。
- 規制のない、自由に遊べる場所を居場所とするには、認識（自覚）が必要である。「支え、支えられつつお互い様」という意識が必要で、それをふまえて、現状としては、学校が1番適しているのではないかという考えになった。ただ、学校の独自性がでるのはよいが、居場所とするには工夫が必要である。それがないと、子どもにとって心地よい場所にはならない。
- 伝統的なイベント等については、地域ぐるみの見直し・掘り起こしが必要である。
- 1番強く出ていた意見は、「地域の子は地域の大人が育てる」というものだった。ここに書いたのは集約した言葉だが、親の仲間づくりが必要である。まずは大人が育たなければならない。
- ボランティアを誰が担当するかについて、中高生なども考えに入れたい。中核になって進める人は有償でなければ続かないだろう。

### 『南地域の報告』

委員： 南地域では、4つのグループに分かれて話し合っている。

考えられる居場所として、学校が1番有効に使えるという意見が多かった。他に成瀬センターのかえで文庫・図書館など活かしたり、改築にあわせて子どもが使いやすいようにしてはどうかとの意見が出た。

保険や応急処置対策、責任問題など課題はある。ボランティアや安全管理者は有償が必要である。人材としては、高齢者に声をかけ、集め方も工夫が必要である。

地域会議にはスポーツ団体なども関わっていて、1つの場所ではなく公園などいろいろな場所に居場所があるといいとの意見があったが、今回は学校が中心だった。

拘束されず、のびのびできるところがよいという意見は、継続して出ている。子どもの居場所が大人にもコミュニケーションのとれる場所となるとよい。長くスタッフが関わっていけるような場所であるとよい。

しかし、実際に居場所づくりするにあたって、必要なものが出てくるが、この会議をまとめたときに、市が実施してくれるのか、話し合いが活かされるのか不安を持っているという意見があった。

私の感想としては、自分から発信して、こういう形で居場所を作っていきたいというのではなく、市からの提案に意見するという態勢が強いと感じた。誰かがやってくれるのなら、という考えになってしまった。スタートのころは違ったのだが、参加者からトーンダウンしてしまったという意見を聞いた。やってくれるの？やれるの？という話になってしまい、こちらも上手く軌道修正できなかった。同じようなテーマが繰り返されたため、このような疑問が出たようだ。

居場所としては、学校ということで、そこに付随する問題点を出して行って、やっていきたい。その裏には意見を出したからには実現できるようにという願いがあると思う。

委員： 付け足すと、学校含めすでにある公の場所を、子どもにも使いやすいよう見直してほしいという意見だった。子どもが使いたい時間に空いていないなど、市全体で見直していくべきではないか。

もう一点、受身になっていることについて、話し合いを進める上で、はまっこや新BOPなどいいと思っても具体的な資料がない。提供してもらえると話し合いが広がるのではないかと、との意見があった。

#### 『鶴川地域の報告』

委員： 鶴川地域では、2回目の地域会議で行ったグループ会議を受け、4つの居場所候補（学校、公園、自然、集会所等）に別れ分科会で討議した。

- 学校グループ 学校は使いやすく、1番居場所になりうる場所である。課題は、学童保育との関係をどうするか。放課後プランなどあるが、上手く関わっていけるとよい。
- 公園グループ 公園は小さいものから野津田公園のようなものまである。きつねはらっぱなどの活動も行われている。しかし現状は禁止事項が多く使いにくい。居場所とするには、運営や仕組みを考え直すことが必要である。見守りボランティアなど、人的にも工夫しなければならない。
- 自然グループ 広大な里山、市が購入した土地もある。地主さんに声をかければ使わせてくれるところもある。自然を活かした遊びができる居場所となる。川もきれいになっているので、親水公園のように川も居場所にできる。
- 集会所グループ 地域の人の中に子どもが入り込めるような上手い仕掛け・仕組みを作れるとよい。

以上4ヶ所の可能性を考えてみた。

懇談会委員より、子どもの居場所なのでただ管理されるのではなく、子どもの意見を聞くべきだという意見が出た。

また、親の中には何もせず、預けるだけの人がいるのではと心配する声が多かった。親も自分の子だけでなく、地域の子どもも一緒に育てていくことを考えていくようにしたい。子どもの主体性と、親の積極的な参加が条件になるのではないかと。

委員： 集会所グループでは、有料のところほとんどで利用上ネックとなっている。また申し込み制なので、自由に出入りがしづらいという意見だった。

委員： 地域の意見を聞いていると、出てくる提案や希望に対して、いまひとつ自信を持っていないという印象がある。地域の方々の協力や理解に確信を持ってないことが背景に感じられる。

今後、懇談会で報告し実施されることになる居場所に対して、町田市の事業としての必要条件として、特に大人の意識付けにつながるが出てくると効果的ではないか。

### 『忠生地域の報告』

委員： 忠生地域では、具体的な居場所として、自然がたくさんある中に子どもがたくさんいるという地域性を踏まえた意見が出た。

大人の関心が十分でなければ子は育たない。現在行っている子ども教室を拡大して進めること、地域で昔からある行事や田植えなど取り入れてはどうかという意見があった。

実際に子ども教室の活動を進めていくことに対して、十分な手当が地域の中から出なければ、いい活動にはならないのではないか。

たくさんある自然をどう利用していけばよいか、今後の課題である。現在あるものを十分に活用するために、どのように利用するか、もう少し検討する必要がある。子ども達が関わる中で、「けがと弁当自分もち」の精神でいろいろな活動を広めるようにしていくべきだ。

学校が地域の中では1番使える施設だが、利用する側、地域の人がどれだけ理解しているかどうにかかっている。上から与えられるのではなく、自分たちでつくり上げていき、そこに責任を持って進めていく。何かあったときに学校や行政に責任転嫁するのではなく、地域の指導者で活動を進める人たちが、その点十分承知の上、はっきりした方向性を示していくべきである。学校もそれに応える形で居場所づくりを進めていけるのではないか。

今いるたくさんボランティアや、様々な活動の指導者が地域の中で継続的に育てられる活動をしていけるかが課題である。

子どもにどんな遊び場があり、どんな遊びをして、どんなことが起こっているか、地域の人に把握されていないので、どう伝えていくかが大切である。

学童保育クラブの活動をしている人から、4年生以降の居場所がないので、自分たちの中で運動して、居場所を作る活動をしていってはどうかとの積極的な意見もあった。

総体的には、地域の大人の理解と子どもの遊びに対する理解が必要ということである。

### 『堺地域の報告』

委員： 堺地域では、家から近いところにある居場所が1番望ましいという意見だった。堺地域は、範囲が広く、自然もたくさんある。学校へ行くにも30分以上かかる子もいる。学校開放は1番よいが、遠い子は今の時期などほとんど利用時間がないので不都合である。

そこで、地域にある公園を有効に使えるとよいのではないかという意見が出た。しかし、今は子どもにとって有効に使えていない状況である。なぜかを基本から調べなおして、問題をクリアしていけばいいのではないか。公園がどこにあるか知らない大人もいるので、公園マップを作る。なぜ使えないか、どういう使い方をすればよいか、検討しなおせばよい。これは各地域で有効であろう。自由に遊べる場所として、大人も近所の公園なら目が届く。見守り隊にとっても見守りやすいのではないか。

地域のイベントについて、各地域にある青少年健全育成地区委員会では、それぞれ独自のイベントが行われているので、継続していくとよいと思う。

地域の子は地域の大人が育てるということについて、基本的なルールを保護者がまず教えることが大事である。三六九の「江戸しぐさ」にたとえられるようなことを、地域に出て活動する際の基本的ルールとして子どもたちは知っておく必要がある。

小山ヶ丘小学校の校長先生から、屋根があると大人も居やすいので、現在校舎増築のため使っているプレハブを公園などに移動して、雨のときにも使えるように、有効利用してはどうかとの意見があった。

また、地域にある小山センターの中には、子どもの使える場所がないので、高齢者の利用する部屋を子どもも使えるようになるとうい。

座長： 5地域の報告内容について質問はあるか。→なし

#### (議題2 協議)

座長： 4回目の地域会議はまとめとなっている。懇談会ではここが大事というところをまとめ、地域に戻し地域で練る。懇談会でのまとめとして、おおむね町田市として取り上げていくべきところはあるか？懇談会としての総意を練って行きたいので、フリートークで意見をどうぞ。

副座長： 私は担当以外の地域会議にも出た。

この懇談会には全国子ども会連合会の関係で参加している。今から25年前は、子ども会は多かった。小学生は80%、中学生50%加入していた。それが現在は小学生では50%、中学生では10%の加入率となってしまった。

原因のひとつには都市化の進展がある。一緒に遊ぶ同級生が見つからなくなってしまった。2つ目に、遊びが個別化して集団でなくなった。極めつけは親の意識の変化がある。役員をやるのは嫌なので、行かせないという親がいる。また親の就労で子どもと関わる時間が減った。心配なのは子どもの時間がなくなったことである。友達がいらない、遊ぶ場所がない、仲間・時間・空間の「3間」がない。

子どもの居場所は大人の居場所とイコールである。子どもは場所を選べない。この地域会議は分散化して継続していくべきである。参加者は、最初は人のせいにしていたが、会議を重ねることにより自分たちで変えていかなければと意識が変わってきた。

座長： 市や他人が何かをしてくれるという考え方から、原点に戻って見つめなおすチャンスになったこと、意識の改善という契機には貢献できたのではないか。地域、親が大事という提案にとらえられる。

委員： 子はかすがいという。地域社会が昔のように機能していないところを立て直すのに、子どもから高齢者までの地域福祉を考えるとときには、お互いのつながりが大事になる。その際、子どもの居場所を考えるのはいい機会となる。いろいろな立場の人が意見すること、子どもを軸にして改めて地域を作っていくのだと議論することが大切である。

子どもの置かれている状況を考えるとき、昔のような縦横のつながりが希薄である。ゲーム機で遊ぶだけでなく生の人間同士の関わりを豊かにすることが必要と思う。それは大人のつながりを豊かにすることも同じである。大人の中にはいろいろな考え方があるが、それを認め合うことが大事である。あれもこれもでいい。なるべく多様な居場所が報告書

に描けるとよいと思う。

中学2年生の職場体験のように、中高生の力をもっと活かしてはどうか。中高生も半分ボランティアとして居場所を機能させる重要な役割を担える。世代間交流をできるだけして、大学・高齢者も含め、居場所に関わっていけると面白くなる。

座長： 報告書を含め、絶対かくあらねばというものではない。大事なところは強調してもよいが、並列的に述べてもよいのではないか。

委員： 多様化したものを、という意見に反対ではないが、今は選ぶべきものが多すぎて子ども達が分散しているという思いがする。今後懇談会の方向性としては、ある程度絞っていかないと定まらないのではないか。子どもと親のかかわりや居場所について、話し合われ続けることは、長くやってこそわかるものだと思うが、この場ではまとめたほうがよい。

委員： いろいろな地区の話の聞くと、地域性を感じる。それに合わせ、活かしたのになると、多様的になるだろう。この会の中で、おおむね考えられる場所はいくつか挙げられるが、地域としてそこから選んでいければよい。

居場所には、器と精神論がある。私の地区では、みなでやっていこうと盛り上がっていたのに、具体化すると逃げていってしまう姿勢が見られる。そこが私の思いと違った。理想と現実が違うが、精神論はしっかり語られるべきである。器に関しては、いくつかの提案をするのがよいと思う。

委員： 施設をたくさん作ってほしいという意見は、最初はあったがだんだん今あるものを有効にといい意見に落ち着いてきた。しかし、忠生、鶴川など大きな自然や公園があっても、子ども達が上手く利用できていない。子どもがどんなことをしたいかも大人が知らないので、わかる努力をすることが必要との意見があった。知らせること、啓蒙することが必要との意見が多く出た。

忠生は子どもセンターづくりに動いているが、ひとつの居場所として有効に使えるだろう。支えていく人材をどう育てていけるかが大事である。その土地土地でいろいろなやり方があると思う。

委員： 先ほどの公園の話で、マップづくりの際、なぜ使えなくなったのかを子ども達とも話し合っていくことが大切だという意見が出た。理由を子どもが知って、そのうえでルールを覚えていくことも必要である。

座長： ここにいる委員の方々は、各々が関わる団体の活動を今後も充実させてもらいたいと思う。しいて言えば、ネットワーク化されるとよい。

それを踏まえて、1つ目に、この会を設けたことで、大人側の意識付け、家庭が居場所の第一であることなど、見つめなおす契機になっている。それを各地域で強調していくことになる。重要な流れとなっているのではないか。

2つ目に、既設の施設の見直し、有効活用する方策はいっぱいあるのではないか。公園など、子どもの居場所として成り立つように見直す。改善すれば使えるものが、町田の随所にあるのではないかと気づいた。各地域で具体的に話し合われることは、魅力的である。そのひとつとして、学校の利用が挙げられる。

3つ目に、新規のプログラムづくりが挙げられる。学校開放の雨でもできるようなプロ

グラム、自然地を活かしたプログラム、町内会館の利用などが挙げられる。

4つ目に、本当に子どもセンターなどを新設してほしい、という意見が考えられる。

皆さんの意見にはいろいろないろどりがあるが、3つ目から4つ目について、各地域会議に返し、集約できるのではないか。既存のものの有効活用に目が向いてきたような気がするが、いかがか？

委員： 今の話を受け、報告書に対してのひとつの視点として、つぎのようなことが挙げられる。居場所づくりについて、短期的に解決できるものと、中長期的に効果が出るまで時間がかかるものに分けて考えてみてはどうか。また、毎日行うものと週に1～2回など、日常性を横軸にフレームとして考えると分かりやすいのではないか。

座長： 時間的なものや優先順位を考えていくという意見だった。急ぐものもあれば、親と子のあり方などは中長期的に考えることであろう。

委員： 具体的な居場所の例が出たが、実情利用が難しいところもある。子ども達が利用することはよいが、ルールが守れていない。子どもを責めることはできない。親の認識として、公の施設を使うにあたり、地域のみんなが気持ちよく使えるよう、大切に使おうという意識付けが必要である。靴べらを折ったり、磁石を投げたり、落書きすることもある。親がなぜ正すことができないのか、私たちには理解できない。基本となるところが足りていないように思う。

委員： 親教育が必要なのだ。

委員： 市役所がやればよいというが、実際運営しているのは地域の団体など。どこでもルールが必要なので、そのような問題が出てくるだろう。

委員： 大人の意識改革について、子どもの意見を取りあげるアンケートなどを行うときには、大人も書くようにしてはどうか。書くことによって、大人の意識が上がってくるのではないか。

副座長： 子どもの意見を尊重するということは、まったくそのとおりである。ジュニアリーダーなど、親よりは友達に勧められるほうが長続きする。お膳立ては子どもだけではできない。ただ、子どもだからダメというのではなく、大人には子どもの意見を待てる我慢が必要である。子ども委員会についても同じことが言える。子どもが面白がってきているかどうかが大変である。

委員： 堺地区では、子どもの意見を聞いてきて下さいといったのだが、出てこなかった。

副座長： そのための手段を知らないのかもしれない。

委員： なかなか、子どもの意見を聞いてくるのは難しいようだ。

副座長： そこを突破していかなければならないだろう。

委員： 居場所づくりや世代間交流のキーとなるのは居場所運営のボランティアである。誰かがやらねばならないのだが、忙しいし責任が絡むと二の足を踏む。まったくの無償でボランティアができるのか。その人を支える何らかの保障と制度を作らなければならない。既設のものが使えていない理由は、突き詰めていくとそのような問題にある。有能なキーマンを、ある程度の処遇を持って、支えていかなければならない。コーディネーターなど役割を考えることが必要であろう。

(議題3 報告書の作成にむけて)

座長： 報告書の性格を考えると、市長に回答するものであるから、広い意味で行政にやってほしいこと、支援してほしいことの提案でなければならない。地域の自助努力について、その重要性の認識や意識付けだけでは意味がない。それだけで終わらず、情報を流してほしいとか、そのためにどんな支援をしてほしいということを回答していく必要がある。子ども達を見つめなおそうという契機になったことは事実であるが、意識が変わったことは大きな副産物と考える。施設の使い方の工夫だけでは、地域でどうぞやってくださいという様になってしまう。

私が必要と思うことは、市の援助を待つことである。報告書では、市にこのような援助をお願いしたいという提案をしなければならない。優先順位は市長に任せる。予算をつけてもらう必要はあるものも出てくると思うが、いかがか？

委員： 今までの会議の中で、具体的なことが出ている。有償ボランティアなど責任があるものに対する人材的な費用と、学校など建物の改築があるならそのための費用、この2つは重要なので最低限必要である。

委員： 学校の校庭開放と空き教室の利用を、報告の項目に入れてほしい。地域によっては教室が空いていないところもあるだろうから、その場合は校庭の開放のみでもよい。公園や町内会館などは、利用の仕方やルールづくりをした上での開放をしたい。具体的なものを出さないと、意味がないと思う。

座長： 地域差はあるが、学校に関してはどの地域からも居場所として挙がっている。学校を利用することについて、市に対する注文はあるか？

委員： 私も1番の居場所は学校だと思う。これから子どもが学校に上がる親としての意見を述べる。雨の日でも使えるように、そしてランドセルを持ったままでも使えるようにしてほしい。そうすれば、親が家にいる子も働いていて家にいない子も公平にあそべるのではないか。家に帰れば親がいる子は、何時までと親と約束して利用し、遅い時間なら迎えに行く形にする。全体を見てくれる有償ボランティアと、親も含めた地域の無償ボランティアが必要である。最低限のルールづくりは親に教えて、親が子に教えるようにする。でも、学校だけに居場所を留めるのはもったいない。公園やセンターなども活用していく。新設は費用がかかるし、あっても行く子は限られる。そこに入って自由がないとも感じる。自由に遊べる場所を取りあげてほしい。

座長： 今出てきた意見、懇談会としての合意を1月23日の第6回懇談会には持ちたい。懇談会としての要望を確認して正式報告に取り掛かる。その後5回目の地域会議に向かう。

座長： まず、まとめのたたき台づくりに着手する。報告書作成内容の確認を資料2に沿って行う。私が案を作ったので、意見をいただきたい。タイトル副題は事務局に後日見直してもらおう。

①なぜこの委員会が立ち上げられねばならなかったのか、背景説明を協副座長にお願いしたい。

②今回の検討に当たる組織づくりについて、懇談会のみならず5地域に会議をもった意図を、事務局中心にあげてもらおう。

③検討の経緯について、これまでの大まかなやり取りを岩崎委員、奥委員にまとめていただきたい。

④懇談会の結論として、今日の意見のような、自助努力の部分と行政への要望などをまとめる。菌田委員、舟山委員にお願いしたい。

①～④について、書式や字数の制限はないので、担当が思いのままに第一次原稿を上げてほしい。

担当の委員について、要望や他にも加わりたいという希望はあるか？

⑤私が、会を終え、このような副産物ができたというようなところを総括する。

⑥参考資料として地域会議で出た資料などを載せる。

最後に、全文の点検と補説を私のほうで行いたい。

勝手なお願いだが、まずは担当の委員で案を1月15日までに事務局へ提出していただきたい。メールでも手書きでもかまわない。それを次回の懇談会までに集約して、できれば事前にみなさんに目を通していただき、議論して原案をつくりたい。そして、4回目の地域会議と7回目の懇談会に向かいたいと思うが、いかがか？

委員： ④のまとめと提言は、懇談会全体の核心部分なので、すべての委員が何らかの形で提案を書いてもらいたい。対立するものもあるかもしれないが、それを担当2人でまとめるのはいかがか？提言部分は、長々とではなく要点をまとめ、年末までに各委員の意見を出してほしい。

座長： 委員の宿題、異存がなければ、提言を寄せてもらえるか？ここで共通の提言をまとめたわけではないので、今日までの会議の内容を受けて、各委員の市に対する提言を出していただきたい。箇条書きでも、2・3行でも、項目だけでもよい。12月25日の午後5時までに、何らかの形で青少年課へ提出していただく。

副座長： 文体はどのようにそろえるか？

座長： 「である」体とする。全体としての意見はあるか？

委員： 地域会議で、情報不足との意見がある。相模原市や横浜市などの実施例など、資料・情報提供を次回の地域会議で示すことはできないか？

児童青少年課長： 資料なら用意できるだろうが、映像等これから撮ってくるのは難しい。

座長： では、ペーパーで資料を配布してもらおうようにする。  
次回懇談会は、1月23日とする。

以上